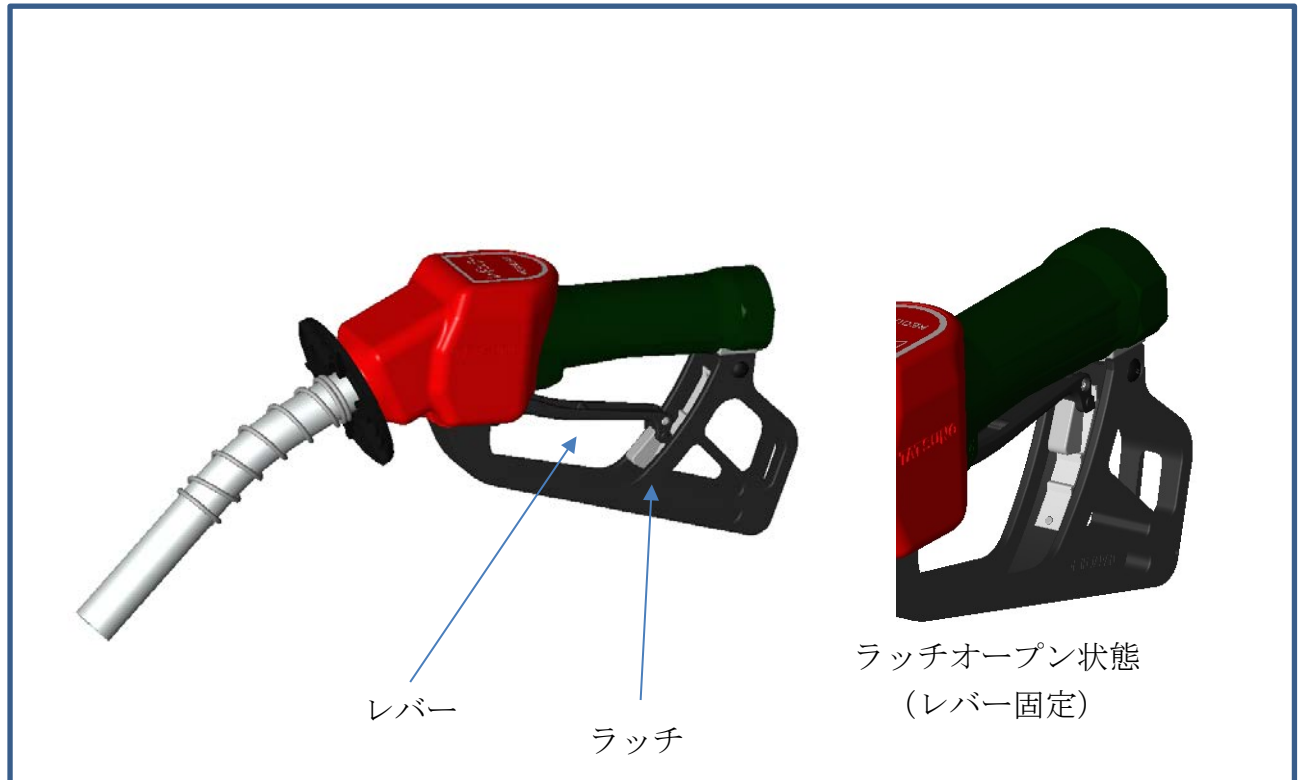


ラッチオープンノズルについて

1 概要

ラッチオープンノズルとは、ノズルの手動開閉装置を開放状態で固定する想定をそなえたもの。



2 市場への流通状況

計量器工業会を通して、各メーカーに聞き取ったところ、現在、計量器工業会に所属して計量器を製造している全メーカーでラッチを備えたノズルを生産している。

現在での普及率はフルスタンドではラッチオープンノズルが主流となっている。セルフスタンドでは、非ラッチ式ノズルが主流となっている。

**ラッチオープンノズルを使用しないことで低減され则认为られるリスク**

事故パターン1 (固定給油設備の不具合によるガソリン流出)

ガソリン大量流出のリスク

事故パターン2 (給油行為者の故意又は過失によるガソリン流出)

ガソリン流出のきっかけリスク、ガソリン大量流出のリスク

参考：危険物保安技術協会「固定給油設備等及びこれらの構成設備の型式試験確認実施要領」
(平成10年3月11日制定・最終改正平成19年8月20日) (抜粋)

一	セル	個
般	フ	別
一	〇	①

4-2 給油開始前ノズル起動制御装置 (ラッチオープンノズルを使用するもの)

4-2-1 給油開始前ノズル起動制御装置の方式の確認

ラッチオープンノズルを使用する場合は次の(1)、(2)又は(3)のいずれかの機能が設けられていることの確認を行う。

- (1) ノズル掛けにノズルを戻すとラッチの固定を解除する機構を有する。
- (2) ノズルへの危険物の供給が停止された場合に、ノズルの手動開閉装置が開放状態になっていても自動的にノズルの開閉装置を閉止状態にする。この状態でポンプを起動した場合には油が出ない。
- (3) 給油許可スイッチを入れたときに、いきなり計量が始まった場合は異常と判断し、ポンプを停止する。

4-2-2 作動試験

固定給油設備の実液又は代替液による運転状態において、ラッチの掛かる最小吐出量及び最大吐出量においてラッチの掛かったままで給油完了状態にし、4-2-1の(1)～(3)について、次の対応する番号の試験確認を行う。

- (1) ノズルをノズル掛けに戻すとラッチ固定が解除されることの確認をそれぞれのノズルについて5回ずつ行う。
- (2) ノズルの手動開閉装置が開放状態で、一旦ポンプを停止し、再びポンプを起動させた場合に油が出ないことの確認を行う。このとき、一旦手動開閉装置を閉止した後は油が出ることの確認を行う。
- (3) ポンプの停止状態において、ノズルの手動開閉装置を開放状態とし、ポンプを起動させた場合、一旦油が出るが直ちにポンプが停止することの確認を行う。
(1)、(2)又は(3)について各3回の操作作動試験を行い、給油の停止作動に異常のないことの確認を行う。

ズ